

令和2年度 学校自己評価システムシート (私立 松栄学園高等学校)

| | |
|--------|---------------------------------------|
| 目指す学校像 | 入学した生徒が、学習を継続的に進められ、卒業後の出口を確かなものにする学校 |
|--------|---------------------------------------|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | 1 学習継続率、卒業率の維持・向上を目指す取組みの工夫をする。 2 卒業後の進路に目を向けさせ、進路決定サポートを充実させる。 |
|------|--|

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|----|
| 出席者 | 学校関係者 | 4名 |
| | 生徒 | 名 |
| | 事務局(教職員) | 4名 |

| 学校自己評価 | | | | | | | |
|--------|--|---|--|--|---|-----|--|
| 年度目標 | | | | 令和2年度評価 (5月28日現在) | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 単位制による通信制高校というシステムの中では、入学した生徒の年次が下がるほど、将来の進路に対する意欲が希薄なため、学習継続率が下がっている。結果として単位未修得で卒業がなくなる生徒もいる。そこで、生徒にとって学習が継続でき、高校の卒業率を上げることを第一の重点目標とする。 | <ul style="list-style-type: none"> 通信制の根幹であるレポートの提出率を上げ維持する。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒が意欲的に取り組めるレポート問題の工夫をし、改訂を進める。 提出率の傾向を分析し原因把握する。 生徒に直接声を掛けることで、レポート提出意欲を喚起する。 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書改訂年度ごとに合わせたレポートの質、量の検討と問題の見直し レポート提出率の分析と把握(レポート管理システムによる) | <ul style="list-style-type: none"> 1年次提出率 49.4% (前年 48.1%) 2年次提出率 54.6% (前年 50.3%) 3年次提出率 60.8% (前年 59.6%) 全体提出率 54.9% (前年 52.6%) | B | <ul style="list-style-type: none"> 今年度は改訂が行われなかったため、レポート内容についての評価は省略する 全体としては、昨年度よりも提出率が上がった。3年次科目になるにつれ提出率が上がっている。1年次の提出率が50%より低いこともあり、年度中に終わらせるという意識が低いことが見受けられる。そのため、今後は年度内に提出するように促すことを検討。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 単位制による通信制高校というシステムの中では、入学した生徒の年次が下がるほど、将来の進路に対する意欲が希薄なため、学習継続率が下がっている。結果として単位未修得で卒業がなくなる生徒もいる。そこで、生徒にとって学習が継続でき、高校の卒業率を上げることを第一の重点目標とする。 | <ul style="list-style-type: none"> 面接授業であるスクーリングの出席率を上げることで、単位修得率を上げる。 | <ul style="list-style-type: none"> スクーリング会場オープン制(会場自由受講)、視聴覚教具等の活用による面接授業時間の減免。学習の効率化を図るための工夫をする。 特別活動の多様化とその工夫を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 多くの学校行事を実施し、面接授業時間の減免機会を確保 体育の単位修得率分析と把握(レポート管理システムによる) | <ul style="list-style-type: none"> 体育a単位修得率 36.6% (前年 35.9%) 体育b単位修得率 43.1% (前年 40.2%) 体育c単位修得率 55.6% (前年 50.5%) | B | <ul style="list-style-type: none"> 会場自由受講の励めを強化し、スクーリングオープン制度をリニューアル(20年度)。その後、利用者が増え一人一人が計画的に学習を進めることができています。 新型コロナウイルス感染症の影響で、例年行っていた学校行事がほとんど実施出来なかった。特に校外での行事の実施が難しかった。 新型コロナウイルス感染症の影響で4月と5月が休講になったこともあり、「NHK高校講座」視聴による放送視聴でスクーリングの代用をする生徒が増えた。 体育実技に関して、前年度の課題であった参加人数の確保に加え、新型コロナウイルス感染症を踏まえた身体運動の機会確保に向けた、大幅な改善を行った。毎週校舎別で実施した結果、前年を上回る出席者となり、単位修得率も上がった。次年度は出席者の更なる向上を目指し、周知していくようにしたい。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 単位制による通信制高校というシステムの中では、入学した生徒の年次が下がるほど、将来の進路に対する意欲が希薄なため、学習継続率が下がっている。結果として単位未修得で卒業がなくなる生徒もいる。そこで、生徒にとって学習が継続でき、高校の卒業率を上げることを第一の重点目標とする。 | <ul style="list-style-type: none"> 進級を目指すための進級時に行う履修登録者の率を上げる。 履修状況を把握し、計画的に単位修得する。 | <ul style="list-style-type: none"> 学習継続意欲を喚起するためのMタイムズ等広報紙の活用と生徒への直接的なアドバイスをします。 履修状況照会システムの導入、及びその利用方法と活用について周知、アドバイスする。 ホームページを随時リニューアルする。 定期的なメール配信を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> できる通信による個人学習状況の現況確認と学習意欲喚起への助言 Mタイムズやメール配信(27年度より)による学校生活全体の周知徹底 メール配信リスト登録率分析と向上に向けての取り組み | <ul style="list-style-type: none"> 携帯電話やパソコンによる履修状況照会システムの積極的な活用推進(生徒自己評価による利用率は高い) メール配信登録は任意であるが、入学ガイダンス時にその必要性を理解してもらうことで高い登録率を確保できていると判断する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 今後も定期的に学習が止まっている生徒へ、直接連絡をしていく必要がある。並行して、通信制で求められる学習の「自己管理」は失わせないように注意すべきである。また、学校外の活動が忙しい生徒について、連絡することで学校への存在を忘れないように意識付ける必要がある。その中で、学習再開につなげていくことができた生徒も何人かいたことは非常に良かった。 履修登録率が全体で81.5%であり、ほとんどの生徒が学習を継続することができた。 積極的にシステムを活用してもらうため、ログインIDやパスワードを分かりやすく改善した。 何らかの事情でメール配信ができなくなってしまった生徒は合わせて学習が止まっている傾向が見られる。学習の継続に相互の関係があることを考えると、配信ができなくなってしまった生徒への早急なアプローチと継続した配信、新入学生の高い登録率はこれらも意識していきたい。 |

| |
|--|
| 学校関係者評価 |
| 実施日 令和3年5月28日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 |
| <p>3年次科目になるにつれ提出率が上がる傾向は続いているので、具体的に早期に単位を修得しておくメリット(推薦入試など)を提示することで、1・2年次科目を履修している生徒の学習意欲を喚起させる取り組みを行ってほしい。また、年次だけでなく教科や科目による提出率の比較などからも、提出率の改善策を考えていってほしい。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により様々な学習活動が制限された中で、可能な限りの工夫を行った学校側の苦労は察するに余りある。その中で生徒の学習状況に大きなマイナスが見られなかったことは評価に値する。今後も厳しい社会情勢がしばらく続くことが予想されるので、今年度の取り組みを活かしながらいずれも実行錯誤を行ってほしい。</p> <p>高い履修登録率からも、現在の学校の取り組みが生徒の学習継続に適切につながっていると考えられ評価できる。生徒が自己管理できるシステムを維持しつつも、何かあれば気軽に学校を頼り質問や相談ができる関係性を築くため、日々の声掛けや会話など直接的なアプローチにも力を入れ続けてほしい。</p> |

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | | | 学 校 関 係 者 評 価 | |
|-------------|---|--|---|--|--|-------|---|---|
| 年 度 目 標 | | | | 令和2年度評価 (5 月 2 8 日 現 在) | | | 実 施 日 令 和 3 年 5 月 2 8 日 | |
| 番 号 | 現 状 と 課 題 | 評 価 項 目 | 具 体 的 方 策 | 方 策 の 評 価 指 標 | 評 価 項 目 の 達 成 状 況 | 達 成 度 | 次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策 | |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 通信制というシステムのため、限られたスクーリング（面接授業）の時間の枠で、生徒の進路選択に対する考え方や進路の方向性を把握することがなかなか難しく、卒業直前まで進路未定という生徒も多いのが現状である。そこで、生徒が進路の方向性を見だし、進路選択の意欲を喚起し、高校卒業後の出口を確かなものにするためのサポートの充実を第二の重点目標とする。 | <ul style="list-style-type: none"> 就職希望者の内定率を増やす。 | <ul style="list-style-type: none"> 就職希望者の把握を随時行い、相談体制の充実を図る。 就職について、ホームページの充実を図る。 段階的な就職指導を行うことにより、就職することへの意識の充実化を図る。 ハローワークとの連携を積極的に活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> 就職希望者への段階的指導を徹底、リスト化し、全校舎共通の指導を行う 生徒の適性に応じた準備を進め、就職内定率の向上を目指す 就職希望者に対する就職内定率の分析把握を行い、問題を見直す | <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人に対する段階的な指導を、全校舎共通で確実にを行うことができた。一方、学校紹介以外で行動していた生徒の就職希望者が残ってしまった部分があった。 ハローワークや合同企業説明会の活用により、就職内定を決めることができた。 就職内定率 89.9% (前年 80.7%) | A | <ul style="list-style-type: none"> 就職ガイダンスへの呼びかけを積極的に行い、早い段階から就職意識を持たせる。また、ハローワークや企業と連携し、就職先の選定を効率よく行っていく必要がある。そして、継続した就職指導を行うために、より丁寧な指導をすることが今後の課題になる。そのため、全職員が共通の理解を持ち、しっかりと連携を取って指導に当たれるよう整備する必要がある。 求人票の迅速な公開を全校舎共通で行い、生徒や保護者へのより良い情報提供に努める必要がある。 | <p>新型コロナウイルスの影響により企業の採用状況が不透明な中、昨年と変わらない就職内定率となった学校側や生徒の取り組みは評価に値する。高卒に限らず、企業の採用方法や働き方の多様性は今後益々増していくことが予想されるので、教員間だけでなくハローワークや就職サポートの企業との連携をより強化し、情報の更新や就職活動の工夫に活かしていってほしい。</p> |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> 通信制というシステムのため、限られたスクーリング（面接授業）の時間の枠で、生徒の進路選択に対する考え方や進路の方向性を把握することがなかなか難しく、卒業直前まで進路未定という生徒も多いのが現状である。そこで、生徒が進路の方向性を見だし、進路選択の意欲を喚起し、高校卒業後の出口を確かなものにするためのサポートの充実を第二の重点目標とする。 | <ul style="list-style-type: none"> 大学、短期大学等上級学校の進学者内定率を増やす。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路状況を把握する。 進路指導室を充実させ、相談活動の活性化を図る。 長期休業期間の相談体制の充実を図る。 進路選択に関する多様な情報の収集と生徒への提供を充実させる。 進学について、ホームページの充実を図る | <ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査を実施する。 学校種ごとにOC情報をこまめに更新し、生徒へ周知徹底を図る。 生徒の適性に応じた準備を進め、進学内定率の向上を目指す 進学希望者に対する内定率の分析把握を行い、問題を見直す | <ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査の実施により、生徒の志望校を早期に把握することができ、具体的な進路指導を展開することができた。 進学内定率 86.51% (前年 89.11%) | A | <ul style="list-style-type: none"> 就職同様に適した直接的な指導を手厚くしていくことで、進学内定率を向上させることができた。 同じ学校でも、以前に比べると推薦・AO入試での試験内容のレベルが上がっている傾向が見られる。とりわけ、口頭試問や小論文を試験内容として採用し、生徒に対して確かな実力を求める上級学校が増えている印象であるため、学校側でもいっそうその対策を充実させていく必要がある。 上級学校の資料や情報は更に充実していく必要がある。しかしながら、その資料は膨大な量になるため、しっかりと厳選して提供する。また、長期休業期間を考えて、生徒の進学希望をできる限り早く確認することで、一人一人に合った対応を確かなものにしていきたい。 | <p>試験内容の多様化、レベルアップが見られる中、進学内定率が向上したことは評価できる。生徒の状況を把握し、個々に適した適切な指導内容と時間の確保に努めた結果と考えられる。試験内容が多様化し、レベルも変化していくとすると、教員の指導もよりワンパターンでは通用しなくなっていく。教員個人の指導力の向上もそうだが、教員間による指導力に差が出ることがないように、より指導方法の共有に努めてほしい。</p> |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> 通信制というシステムのため、限られたスクーリング（面接授業）の時間の枠で、生徒の進路選択に対する考え方や進路の方向性を把握することがなかなか難しく、卒業直前まで進路未定という生徒も多いのが現状である。そこで、生徒が進路の方向性を見だし、進路選択の意欲を喚起し、高校卒業後の出口を確かなものにするためのサポートの充実を第二の重点目標とする。 | <ul style="list-style-type: none"> 高校卒業後の出口を確保し、進路未決定者を減らす。 | <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間に係るスクーリングで適性検査を実施し、受検者を広め、個人適性情報の的確化を図る。 適性に応じ、進路への意欲付けや進路選択のアドバイスをする。 | <ul style="list-style-type: none"> 適性検査実施状況を分析、結果の見方指導を充実させる。 進学及び就職ガイダンスを実施し、進路未決定者（決まっていない生徒・決める気のない生徒）も参加するよう誘導する。 | <ul style="list-style-type: none"> 適性検査実施状況 67人 (前年 93人) オープンキャンパスや体験入学への参加指導を進める。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 進路未決定者の割合は減少を継続している。さらに良い結果を出していくためには、生徒への早めのアプローチが大切である。2学期制の本校では、夏休みに入る前の前期中に積極的に声を掛けていく必要がある。進路未決定者でも、特に進路に関しての意識付けが全くできていない生徒がいないよう、確実に対応すべきである。 適性検査に関しては昨年度よりも受検者が大幅に減ってしまったが、実施時期と時勢を鑑みると仕方ない点もあるか。来年度以降で例年並みの水準に戻していけるような努力が必要である。 | <p>未決定者の割合の減少を継続できていることは評価できることである。しかし今年度は、新型コロナウイルスの影響からも進路の方向性を決めあぐねた生徒も少なくなかったと考えられる。教員自身も経験したことのない未来への不安に対する進路指導においては、教員は生徒に教えたり引っ張ったりする立場ではなく、共に考え伴走するように接していく必要があるかもしれない。</p> |